P-A-10
掲示番号2

「子育て親塾」の実施と検討
― 企業と大学の協働による子育てと仕事の両立支援の試み ―

○天野美和子（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター）
淀川裕美（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター）
安達和世（社会福祉法人山百合会） 水嶋和代（府中めぐみ保育園） 尾崎富美子（山村学園短期大学）

社会的背景

少子高齢化の進行・女性の社会進出

企業を取り巻く環境の変化

・対策として次世代育成支援対策推進法が制定
・企業にも次世代育成に取組む責務が課せられた
（厚生労働省，2003）

・単に制度を導入するだけではなく、各企業が働き方の見直しや、制度が効果的に利用される職場づくりなどの取り組みを総合的に行っていく必要がある。
・子育て中の社員が前向きに仕事にも、子育てにも取り組めるための支援も求められている。

プロジェクトの目的

本プロジェクトでは、子育てと仕事の両立に関心のある社員が、子育てのより良い環境や関わり方についての学術的根拠に基づいた知識を職場で学び、自身の日々の生活や働き方と結びつけつつ同僚らと共に考えを深める機会と場を提供するこ とを目的する。

企業と大学との協働

本プロジェクトは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（以下、Cedep）と、（株）日本共同システム（以下、NKS）との協働による。
NKSが運営を担い、Cedepが講座プログラムや実施、ファシリテーターの養成を担っている。

「子育て親塾」の概要

本講座は次の二つの学びの柱から成る

① 学術的根拠に基づいた「子育て」や「子育てと仕事の両立」関連の映像講義視聴とワークによる学び

【映像講座内容・テーマの一例】
「親子関係の基本はアタッチメント」
「睡眠と発達ー寝る子は育つー」
「共働き世帯の子育てと保育の質」
「子どもの社会性と感情の発達」

② 知識と実際の自身の生活を結びつけるためのグループディスカッションによる学び

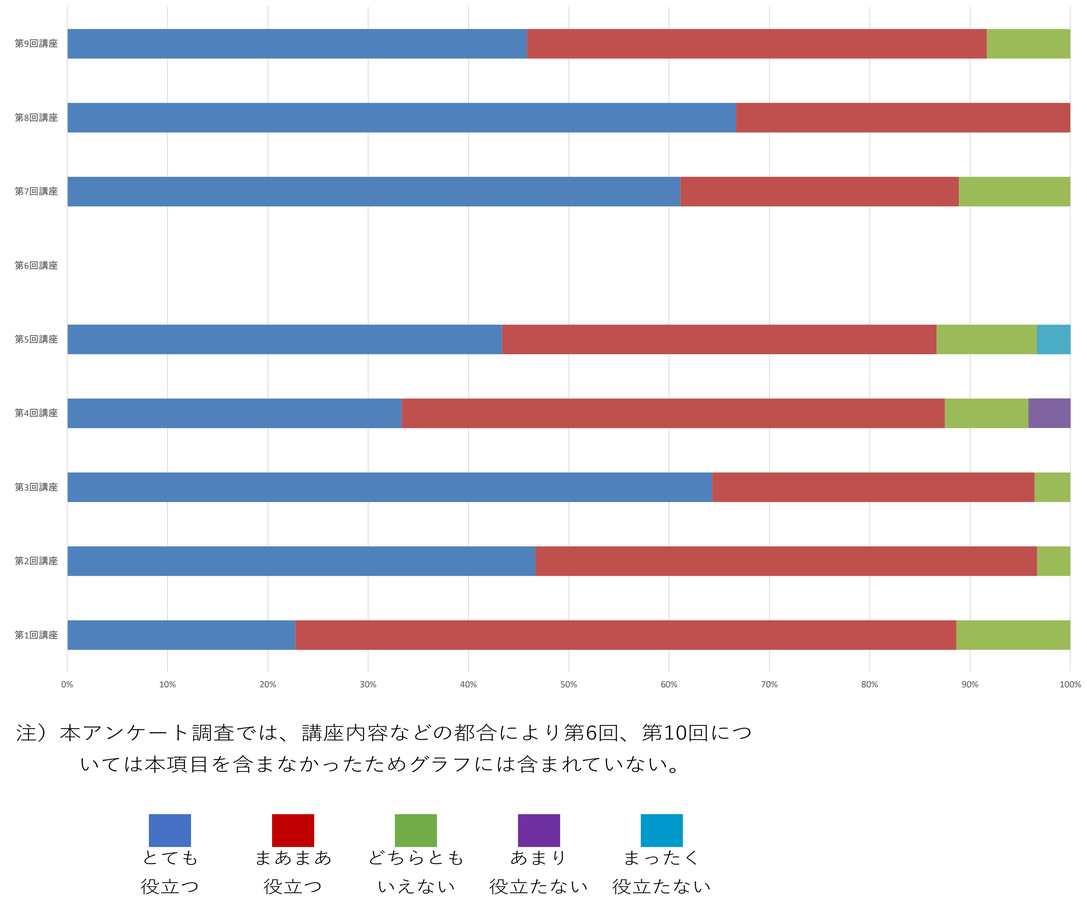
【ディスカッションテーマの一例】
「男性の育休・子育てについて徹底討論！」
「子どもに〝共感〟してかかわるってどういうこと？」
「子どもにとって〝質の良い保育〟ってなんだろう？」

「子育て親塾」試行の調査結果と考察

実施期間：2016年9月～2017年3月（連続10回講座）
開講時間：18:30～19:45
登録者数：59名（女性31名・男性28名）

【子育てや仕事との両立への役立ちの度合について】
受講後アンケート（5件法）の結果、「今後の子育てや仕事との両立に役立ちそうか」の設問についての回答結果は図1のとおりであった。どの回においても、「とても役立つ」「まあまあ役立つ」と評価している参加者が85%以上を示していることから、本連続講座による学術的根拠に基づいた知識の提供や、社員同士で切磋琢磨して考えを深め合うワークやディスカッションが、社員の子育てや仕事との両立を支えるためのツールとして役立っていることが示唆された。

子育てや仕事との両立に役立ちそうですか？



注）本アンケート調査では、講座内容などの都合により第6回、第10回については本項目を含まなかったためグラフには含まれていない。

図１「今後の子育てや仕事との両立に役立ちそうか」の設問についての回答結果

【受講後アンケートの自由記述回答について】
映像講義についての自由記述回答を類似した内容でカテゴリーに分類したところ、5つの講座で「もっと知りたい、考えたい」が32%（全カテゴリー中、以下同様）、「理解の深まりや、気付き」が25%という結果が得られた。学術的根拠に基づいた知識を学ぶことにより、知識習得だけではなく新たな気づきがあり、さらに「もっと知りたい」という意欲を引き出しているといえる。
また、映像講義視聴後に実施したワークやグループディスカッションについては、3つの講座で「同じような状況の人と話せてよかった」が7%、「いろいろな人と話せてよかった」が8%という結果であった。同じ職場で子育てや仕事との両立という共通の話題で話し合う際に、自分と状況の似通った人だからこその良さの一方で、多様な人と交流を経験することの良さの気づきがあったことが示唆された。

表1 受講後アンケートの自由記述回答の一例

講座テーマ	自由記述回答の一例
「共働き世帯の子育てと保育の質」講座	・子育てに熱心な同じM社のメンバーとディスカッションできることは、とても貴重だと思いました。
	・保育園選びの時に、いろいろ調べた内容ではありましたが、皆と情報交換できたのは楽しかったです。
「子どもの社会性と感情の発達」講座	・専門家から子育てについての専門知識を聞ける貴重な機会なので、より高度、詳細な内容を、もう少しスピードアップして聞けると嬉しいです。
	・育児に対する考え方を見直すよいタイミング、内容だった。
「胎児期から乳児期の脳発達」と「睡眠と発達：寝る子は育つ」講座	・基礎情報を基にすると、どの時期に何をするのが科学的にどうオススメなのかこそが知りたかった。
	・大きなお子さんのいる方とのグループで、これからの育児についてのアドバイスを頂けて助かりました。

【今後の課題】
さらに分析を進め、本講座における男性社員と女性社員の差異や共通点、子どもの年齢による違い等についても明らかにしていきたい。